

中朝国境の街「丹東」を訪問して

平岡 康裕 (東京 #499)

2004年7月、中国と北朝鮮間の国境経済についての調査の為、中朝国境の中国側の街である丹東を訪問して、現地の研究機関、韓人事業家、地元企業に勤務する朝鮮族に面談を行ないました。

5月に発生した北朝鮮の龍川駅爆発事故で日本にも知られるようになった丹東は、「特別行政区(一種の経済特区)」に指定されている北朝鮮側の新義州と唯一陸路(鉄道及び道路)で連結している街であり、北朝鮮にとっては生命線とされています。

2003年の中朝貿易は、北朝鮮からの輸出が対前年比46.1%増の395百万ドルと大幅に増加、輸入も同34.3%増の628百万ドルとなり、貿易額は対前年比38.6%増、10億ドルを突破しました。北朝鮮の貿易に占める中国の比率も輸出が50.9%、輸入が38.9%、貿易額では42.8%に達するなど経済関係が深まっています。

丹東の2003年の貿易量は前年比16.1%増の16.6億ドルを記録、輸出は同17.5%増の10.6億ドル、輸入は同13.7%増の6.0億ドルであります。このうち、対北朝鮮貿易が占める比率は貿易額で15.6%、輸出が19.9%、輸入は9.8%に過ぎないものの、貿易額は前年比20.7%増、輸出は前年比10.6%増、輸入に至っては前年比78.8%増となるなど、貿易が拡大しています。北朝鮮の対中貿易額に占める丹東の比率は26.1%と高く、丹東が北朝鮮の貿易において重要な役割を果たしているほか、丹東が対北朝鮮貿易のルートに位置することを勘案すれば、実際に丹東を経由する貿易量は更に多いとされます。

丹東には韓国の仁川市が造成した工業団地があるが実際に稼働しているのは2社と言われるほどお寒い状況ですが、中国側、特に遼寧省は丹東を朝鮮半島と中国大陸をつなぐ将来の経済拠点として育成する思惑があつて、中国國務院の批准を受けた国家級の開発区に指定された丹東の市街地に集中的な投資を行なっています。

こうした中国側の真意を量るように、丹東周辺では北

朝鮮からの要人訪問が相次いでいます。最近では北朝鮮の貿易事務所も増え、北朝鮮の資本が経営する飲食店も次々と開店しています。勿論、外貨獲得の意図もあろうが、資本経済の導入や国境経済一体化に向けての準備作業に取り掛かっていると見る関係者も少なくありません。

北朝鮮から家族単位で丹東に移住するケースもある一方、2000年6月の南北首脳会談以降は、北朝鮮の人間が韓国人との接触に対しても比較的打ち解けるようになるなど今後も人的な交流が活発になるだろうと見る向きも多い。

華人ビジネスから学ぶ

根橋 玲子 (東京 #383)

これまで世界観も宗教観も言語も違う様々な国の人たちと仕事上でもプライベートでも関わりを持ってきましたが、私が一番身近に感じお世話になってきたのはやはり華人です。「華人」とはいわゆる中国大陸に住む中国人のみならず、東アジア・東南アジアの経済を引っ張ってきた華僑であり、アメリカや欧州など世界各国に移住してコミュニティを形成している華僑でもあります。

華人に「何のために仕事をしているのか」と聞くと「お金を貯めて自分で商売を始める」という答えが非常に多い。最後の目標は独立開業であるから、当然会社に勤るといのはスキルアップやお金を貯める手段であり、スピアウトも多く、企業への定着率が比較的低いため、台湾在住時には日系企業の経営者から、せっかくお金をかけて技術を教えたのにすぐに辞めてしまったという不満を良く聞きました。とはいえ彼らは金銭第一主義という訳ではなく、華人ビジネスの根底を担っているのは「人の繋がり」それも「家族や親族を中心とする繋がり」です。確かに、儲かることに対しては積極的にどんな企業にもアプローチをするが、いざトラブルや揉め事があつた場合、彼らが「自分の親族やそれに近い人間」であると認識していない人達には、「没办法」(仕方がないから諦めてくれ)と言い、その後の対応をしないということとはザラです。彼らが注意して見るのは会社の規模

Contents (目次)

P1...	中朝国境の街「丹東」を訪問して	平岡 康裕
	華人ビジネスから学ぶ	根橋 玲子
P2...	中国にて人不足で悩むとは	中根 昌孝
	将来の日本と中国を憂う	片本 善清

P3...	貿易アドバイザー等と 中国経済産業局との情報交換会について	塩田 靖浩
	役に立つために 支部活動	永野 靖夫
P4...	アドバイザーの活動	
P6...	埼玉県海外取引アドバイザー制度による貿易相談 会員異動、AIBA会員名簿2004年 正誤表、編集後記	

よりも社長や責任者の理念や考え方などで、人間的に信用されて親族と同じように扱われるくらいでないとも本当の意味でのビジネスを彼らとはできないとも言えます。特に台湾の中小企業は社長が朝令暮改であることが多く、社員もすぐには対応せず様子を見ることを心得ています。家族でも親戚でもない以上、相手にどうモチベーションを与えるかが重要な課題となります。

華人ネットワークは、自分の家族・親戚をコアにして、信頼関係を築いた友人などによって構築されています。海外に親戚を持つとそのツテで国際ビジネスを始める華人も多い。その中に契約や権利という概念はなく長い時間をかけて作られた信用でビジネスを行うことが多い。ある華人資本の大手メーカーは世界各国に代理店を置き自社製品の販売を行っているが、個々の代理店とは代理店契約は行っていない。こうした信用第一の商取引方法に加え、近年はアメリカのシリコンバレー在住またはアメリカ華僑やアメリカ留学帰りで自国に戻った人達によって、新たな形の華人ネットワークが創出されており、商取引の方法も米国式に契約に則りドライで結果主義・利益主義の若手経営者・2世経営者も多く出ています。華僑ネットワークに米国式実践経営を取り入れた新しい世代の華人達はさらに世界のビジネスの構図を大きく塗り替えていくのかも知れないと考えています。

中国にて人不足で悩むとは

中根 昌孝 (深圳 #365)

中国進出工場のお手伝いを開始して3年を経過、駐在4年目に入っております。キャノンなど複写機やプリンターなどの事務機生産メーカーは協力会社を含め、中国華南地区に一大生産基地を構築しています。当社もそのインフラを構成する一社で機能部品用アルミ材料の加工を行っています。当社の工場は、元々深圳経済特区にありましたが、本年5月に南の中山市三郷鎮に建設した新工場に統合しました。深圳工場時代には、工員10人募集すると応募者は50人から多ければ100人位集まりました。ところがこの中山では10人に対して、10人から10数人といった少なさです。中山市街道沿いの工場群は軒並みに工員募集の張り紙を掲示しています。即ち中山地域は工員不足に陥っているということなのです。この工員不足の傾向は中山に限った現象ではなく外商投資が進んだ沿海地域一般の傾向にあるようです。では工員はどこに行ったのでしょうか。これは農村や内陸部地域への減税を含めた政府の経済挺入れにより、農村や内陸部地域の就労者の所得水準が相当上がってきたため、かかる地域から苦勞して沿海地域へ出稼ぎしようとする人達が減ってきたことによると言われています。中山地区は深圳地区に比べて押しなべて物価は安く、例えば家賃は半値です。ただし、工賃や工員への待遇は必要人員を確保する必要性から深圳レベルに近い条件を準備せざるを得なくなって

います。また、幹部候補生の獲得も大都心をもたない地方の工場は大都心を含む地域（広州や深圳）に比べて獲得は容易ではありません。大都会の人を吸引する力は世界共通のようです。当社も、田舎から職探しに先ず訪れる深圳人材市場で幹部候補生の人材募集を何度か行いました。応募者は沢山集まるのですが、就職先が深圳地区外だと判ると応募者の2/3が逃げていくのです。そして折角確保した幹部候補生も大半が一年も経たない内に退社していくため、幹部級も人不足の傾向が出ています（それほど就職の選択機会が増えたということと自分を磨くチャンスが少なければ別の職場に簡単に移るという変り身の速さが目立ちます）。広州に日本の三大自動車メーカーが集結することで、協力会社を含め自動車関連各社は日本語のできる人材を高給でリクルートしているという噂が広がりました。かかる事情のせいが華南地域では、日本語の解る人材が必要に比して相当不足していると感じられます。

以上中国での人不足事情を一筆したためました。最後に当地広東省中山市（孫文の生誕地として有名）ですが、環境と産業を両立させて急速に発展しています。日本の皆様の投資先候補として推薦いたします（人問題などは、結果としてそれなりに対処できるものと見ています）。

将来の日本と中国を憂う

片本 善清 (奈良 #422)

最近の日本と中国との関係を考えるに、さまざまに気がかりになるのは、この一老人だけでしょうか。今後この中国と如何に付合うかは、政治は勿論のこと、経済的な付き合いも極めて重大であります。特に最近とみにギクシャクが目立つ反日感情・尖閣列島・台湾など多くの問題が続出しています。これら政治的問題以外に、過去前例のないほどの発展を続ける中国経済がいつまで続くかという問題も当面の注目課題と言えます。

1. 貿易のつながりは長いので、われわれの日常生活から見ても、衣類では古くは下着類の輸入から始まり、現在ではカジュアル・紳士スーツ・婦人服などの衣料全般までと範囲が広がり、われわれの日頃身に着けている衣類の50%が中国製という時代までに変わって来ています。衣類のみならず食品や生活関連資材用品などにも相当な勢いで、中国産が急増して来ています。
2. しかし物の往来は増える一方ですが、所謂人の付き合いは逆に難しくなっています。これには今なお顕在する中国人の唯我独尊の中華思想が、両国間の諸問題の解決にヤツカイな障害となっていると思います。
3. お互いに自己の利益を求めるのではなく、ことばは古いが互惠平等の精神の下で、大同小異を原則に大人の付き合いを...となるのですが、これは言うは易く行い難しです。政治・経済を問わず重大な事項は先送りとしなくて、真摯に対処・解決を図るべきであります。特

に日本側がへりくだることのない毅然とした外交を買って欲しいものです。

4. ただ、ここで老人の新しい心配ごとが出てきますが、双方ともに将来的に本当に大丈夫か？ あちらの唯我独尊の子孫が一人っ子政策で、益々これが偏り、一方日常茶飯事に青少年問題が統廃するこちらの教育政策の立ち遅れが目立つ中、どうしたらよいのですか？ 今後20～30年の近い将来の二国間を思うときに、大きな不安と憂鬱を感じます。即ちあちらで宝ものように大事に好きなものを与え、育て上げた子供たちがすでに成人していますので、後20～30年で政治の中樞を担うこととなります。十分な教育を受け頭脳明晰であっても、思想的かつ精神的なレベルからある程度の不安と危惧が生まれます。片やこちらは一人っ子政策がなくても自然と人口が減っていく中で、何不足なくノンベンだらりと育ち、いろんな意味での教え不足で未熟に育った青少年が大半を占める世の中を思うとき、これまたある種の憂鬱が出現して来ます。これらの問題解決こそが、急がれる課題ではなきやと考えております。

貿易アドバイザー等と中国経済産業局との情報交換会について

塩田 靖浩（島根 #469）

平成16年9月10日（金）14:00～17:00に中国経済産業局第3会議室に於いて「貿易アドバイザー等と中国経済産業局との情報交換会」が開催され、近藤昭道氏（#036、AIBA中国四国支部支部長）、澤田圭輔氏（#332）と共に参加して参りました。

従来から中国経済産業局と中国地域の国際経済交流関係機関との連絡会議はありましたが、同局とジェットロ認定貿易アドバイザーとの情報交換会は初めての試みであり、これもひとえに近藤支部長、澤田氏始め諸先輩方の活動の成果であると感謝しております。

当日は、中国経済産業局産業部参事官（投資交流・サービス担当）の榎崎久氏始め、産業部産業振興課の職員5名、ジェットロ認定貿易アドバイザー3名、ジェットロ山口FAZ支援センターのアドバイザー1名、（社）岡山県国際経済交流協会の国際化アドバイザー1名が参加し、中国経済産業局の事業紹介（投資交流関係、通商関係）を受けた後に、各アドバイザーより最近の活動状況に関する報告並びに意見交換を行いました。当方からは、食品の台湾向け輸出、中国寧夏回族自治区産ワインの輸入（平成12～13年度ミニLL事業）、本年4月のインド出張（鉱物資源調達）、本年8月のベトナム出張（雑貨・食品調達、建機輸出）の概況等を中心に報告をさせていただきました。同日17:30からは同局の食堂にて懇親会が催され、同局産業部の皆様方と大いに親睦を深めることが出来ました。

今回の情報交換会を通して、中国地域の産業・経済の

国際化支援の方向性を把握できたこと、広島・岡山・山口各県の貿易相談の傾向等を把握できたことから、個人的にも極めて有益な会となりました。今後も当該情報交換会が継続的に開催されることを期待しますと共に、輸出や対内直接投資を中心とした中国地域の国際化が益々進展することにより、地域経済の活性化が促進されることを願っております。

役に立つために

永野 靖夫（東京 #68）

私が貿易実務の講演をするようになって、10年になりました。初めは、無我夢中でしたが、しばらくすると、貿易実務とは何なのかな...と、考えるようになりました。その結果、ごく平凡ですが、「貿易実務とは、企業が貿易に取り組む際に、役に立つもの」と、現在考えています。

さて、「役に立つ」ためには、私自身が自己研鑽すべきことは、当然ですが、この他に「役に立つ」レベルを向上させる術はないかと言う点です。私は我々仲間同士で情報および意見交換を密にしてゆく以外にないと考えています。

例えば、「法規の改正」については心して注視する必要があります。ご承知の通り、安全保障貿易管理の関係政省令は、毎春、改正されます。又、動物検疫や植物検疫は輸出国・輸入国間で双務的に処理され、一国の思惑だけでは対処できません。このように、我々が根拠とする貿易実務の基礎情報は、絶えず変化しております。

至近な例ですが、昨年未開催された「平成15年度 輸出管理に関する説明会」を直前まで知らず、危なく欠席するところでした。もし、ここで説明された政省令の改正を知らずに、安全保障の話をしたら、大恥を掻いたでしょう。このようなことがないように、私自身注意していますが、これとても万全とは言えません。これらの問題は中々対処が難しいのが現実です。

我々が我が身を守るには、前述のごとく、会員相互で情報交換を密にしてゆく必要を感じております。我々はAIBA-NETと言うたぐい稀な武器を持っていますが、このNETの更なる活用が待たれるのではないかと考えます。

支部活動（2004年7月以降）

東海支部

16年9月4日 例会

- (1) 講演 「独法移行後の貿易保険制度」
講師 独立行政法人 日本貿易保険
大阪支店 西山芳郎支店長
- (2) 講演 「移転価格税制の解説」と
「キャッシュフロー計算書の有用性」
講師 中川善博氏（#67）東海支部会員

関西支部（2004年5月以降）

5月15日 支部総会

講演：「シニア市場の攻略法」

講師：株式会社ディービーシー代表取締役
佐藤忠孝氏

7月24日 研修会

講演：「貿易と貨物海上保険」

講師：安藤 巧氏（#428）

三井住友海上（株）勤務

花崎支部長は当分留任して戴き、他の役員を一新して初めての研修会でした。

今回の研修会講師は平均年齢の高い関西支部員の中では貴重な若手ホープ安藤巧氏（#428）でした。

1994年に三井住友海上火災保険株式会社に入社されてから、貨物保険営業一筋に、その間ロンドンのグローバル企業のリスクマネジメント部門にも出向された経験をお持ちの現役バリバリの保険マンです。

オフレコ、マル秘情報なども織りまぜ海上保険にまつわる理論と現実のギャップを解説されたので興味深く、質問も飛び交い大いに盛り上がりました。

今後も身内メンバーだけの研修会なので、一般公開は出来ないような、少々アブナイ、しかし貿易に携わる者にとって目からウロコ的なお話を聞ける研修会にしていきたいと思えます。

関西支部の悩みは総勢62名のメンバーですが、毎回の研修会参加は25名前後に滞っていることです。新役員会ではこの参加率を上げ、関西支部の更なる活性化を第一の目標としました。

具体的には「研究会」発足の提案がなされ、近年の我が国をとりまく貿易・投資の環境変化に貿易アドバイザーとして対応すべく、最新情報の交換、調査、勉強に研鑽するものです。

ただし、研究会のAIBA内での位置づけは検討の余地があります。

また時間的な制約、場所の確保なども現実的な面も解決しなければなりません。今までの講演会という受動的な活動だけでなく、各メンバーが積極的に参加できる環境を作り関西支部を盛り上げていきたいと思っております。

弓場 俊也（関西支部書記）

9月18日

見学会 施設：MOL大阪南港物流センター

内容：コンテナヤード展望および物流施設の見学

関西支部では去る9月18日に、大阪港に隣接する商船三井大阪南港物流センターの見学会を実施しました。

台風など不順な天候が心配されましたが、当日は晴れで全員ポートタウン東駅に集結してから徒歩にて現地に向かいました。南港は大阪市臨海部に埋め立て、造成された咲洲（南港地区）、舞洲（北港北地区）、夢洲（北港南地区）のひとつで、「テクノポート大阪」計画では、

最終的に約775haのエリアを対象に国際交易、情報通信、先端技術開発の3つの中枢機能と、文化レクリエーション・住居など21世紀の都市にふさわしい機能整備が計画されています。いずれも第三セクター方式で運営されているが、いずれも大赤字で、市の財政を圧迫しているのは残念です。

商船三井の中田取締役、児島所長のご案内により物流センターの屋上より、大阪港のパノラマを一望しました。周辺では一番高い建物なので眼下にはコンテナヤードが広がり、ガントリークレーンなども間近に見ることが出来て港湾設備の理解を深めました。

中田氏のお話では最近では海貨は減る傾向にあり、米国航路も韓国釜山港が東南アジアのハブ港として機能し、日本海側、北海道への海貨は、そこからフィーダーされているそうです。

南港物流センターは保税倉庫でもあり通関はもちろん、商品の簡易加工まで可能な総合物流基地として使われています。

マイナス25度の冷凍倉庫では1分ほどで鳥肌が立つくらい寒く、また高級ワインは定温部屋に大事に保管されていました。見学の後は、場所を移して懇親会を催しました。

弓場 俊也（関西支部書記）

アドバイザーの活動

講演・講師

1. 狩野 健（兵庫 #25）

平成16年7月5日、7日

神戸貿易協会

「貿易取引の始点から代金決済までの実務」

場所：神戸貿易協会貿易研修所

2. 清水 正明（埼玉 #47）

平成15年10月29日

ジェトロ埼玉情報デスク、国際経済交流企業組合共催

「秋季貿易実務講座 貿易書類の読み方」

場所：さいたま市

平成15年11月19日

佐賀県貿易会主催

「貿易実務者養成講座 貿易書類の読み方・書き方」

場所：佐賀市若楠会館

平成16年3月10日

東京商工会議所目黒支部主催

ビジネスシリーズゼミナール

中級編「貿易取引の基本」

場所：都内目黒区市民センター

平成16年6月3日

製品輸入促進協会（ミプロ）主催

小口輸入ビジネス起業塾

「小口輸入の知識(契約、取引条件と決済について)」

場所：都内豊島区ミプロ会議室

平成16年6月15日

ジェット口埼玉情報デスク、国際経済交流企業組合共催
貿易実務講座
「貿易の仕組みと流れ()輸入編」
場所：さいたま市

3. 寺田 一雄(東京 #63)

平成16年8月25日

日本貿易振興機構厚生会

「輸出入通関・受渡業務を巡る最近の動向と実務上の留意点」

場所：ジェット口IBSCホール

平成16年9月10日

北海道経済国際化推進会議、札幌国際プラザ・WTCサッポロ

「輸出入通関・受渡業務に係わる留意点と最近の動向」

場所：ホテル札幌ガーデンパレス

4. 藤原 孝一(兵庫 #93)

平成16年8月19日

ジェット口神戸・神戸貿易協会共催

「国際ビジネス相談会」

場所：ジェット口神戸

5. 渡辺 肇幸(千葉 #115)

2004年7月14日

ジェット口富山

「貿易実務の基礎 輸出編」

場所：富山県産業会館

2004年8月24日

茨城県中小企業団体中央会

「中国における野菜生産の現状と輸入経路について」

場所：茨城交通大洗ホテル

6. 戸村 和民(山形 #200)

平成16年6月22日

東根市商工会

「最近の経営革新の動向」

場所：花ノ湯ホテル

7. 大谷 巖(千葉 #224)

平成16年6月14日、6月17日、6月18日

日本繊維輸入組合

「貿易実務の基礎」

場所 東京、名古屋、大阪

平成16年8月5日

(株)繊維リソースいしかわ・ジェット口金沢

「中国向け織物輸出勉強会」

場所 金沢

8. 鈴木 貞雄(静岡 #309)

平成16年9月10日(金)

世界緑茶協会、ジェット口静岡

日本茶輸出実務入門セミナー

場所：静岡県庁

9. 平林 厚美(長野 #312)

平成16年6月25日

ジェット口長野主催

「輸出入の心得～耳寄り情報」

場所：ホテル信濃路

平成16年8月24日

ジェット口長野主催

「通関・輸送 特別実践編 名古屋港湾施設見学会」

場所：名古屋港

10. 根橋 玲子(東京 #383)

平成16年7月15日～毎週火・木曜日

財団法人交流協会 貿易経済部

「台湾貿易・投資アドバイス・コンサルティング業務」

場所：同協会貿易相談室

11. 弓場 俊也(大阪 #415)

平成16年9月22～12月1日

大阪市、社団法人大阪輸出入協会、

財団法人大阪国際経済振興センター主催

輸出入通関実務セミナー 全10回

場所：大阪マーチャングイズマートビル

相談・アドバイス

1. 清水 正明(埼玉 #47)

平成16年3月9日、12日

FOODEX JAPAN 2004

ジェット口ゾーン「コンサルティング・ブース」にて貿易相談

場所：千葉市幕張メッセ展示場

2. 中川 善博(三重県 #67)

平成16年7月15日 8月19日 9月16日

ジェット口三重主催

巡回貿易相談

場所：伊勢商工会議所 松阪市産業振興センター

平成16年7月16日 8月20日 9月17日

ジェット口三重主催

巡回貿易相談

場所：四日市商工会議所

平成16年8月6日 9月3日 10月1日

ジェット口三重主催

巡回貿易相談

場所：四日市市 じばさん三重

平成16年7月28日 9月8日

ジェット口名古屋主催

貿易・投資相談

場所：ジェット口名古屋

3. 鈴木 貞雄(静岡 #309)

平成16年9月22日(水)

ジェット口静岡

貿易相談

場所：ジェット口静岡

4. 田中 尊雄(愛知 #406)

平成16年7月15日

ジェットロ名古屋主催
貿易相談
場所：ジェットロ名古屋
平成16年8月25日
ジェットロ名古屋主催
貿易相談
場所：ジェットロ名古屋

埼玉県海外取引アドバイザー制度による貿易相談

1. 清水 正明 (埼玉 #47)

平成15年

10月11日 (さいたま市)

10月23日 (岩槻市)

12月15日 (さいたま市)

平成16年

2月5日 (川口市)

2月10日 (さいたま市)

2月12日 (川口市)

2月14日 (さいたま市)

3月12日 (幕張メッセFOODEX会場)

3月19日 (飯能市)

3月30日 (さいたま市)

5月14日 (さいたま市)

6月17日 (飯能市)

7月13日 (蕨市)

8月16日 (入間郡三芳町)

8月31日 (入間郡三芳町)

9月2日 (さいたま市)

会員異動 (2004年6月以後、敬称略)

個人情報保護の為、
削除しました。

AIBA 会員名簿2004年 正誤表

(#191) 黒澤 久司

参考事項 URL :

(正) <http://www006.upp.so-net.ne.jp/ags/>

(誤) <http://www07.u-page.so-net.ne.jp/sa2/kji-kuro/>

(#490) 河原崎 義雄

参考事項 勤務先住所 :

(正) 名古屋市西区菊井2-11-25

(誤) 名古屋市西区鳥見町2-22-1

(#115) 渡辺 肇幸

メールアドレス :

(正) wt40328@ka2.so-net.ne.jp (誤) 空欄

(#178) 米井 資幸

メールアドレス :

(正) fbgyy44430178@yahoo.co.jp (誤) 空欄

(#327) 名城 徹

新住所：〒901-0152 沖縄県那覇市字小禄1831-1

沖縄産業支援センター7階 (株)沖縄県物産公社 (勤務先)

同電話番号：098-859-6456 同FAX：098-859-6330

参考事項：(自宅) 901-0152 那覇市首里山川町1-22-3 グランシャトレ首里306 TEL 098-886-8960

(#363) 中島 勝広

(電話番号) :

(正) 080-1167-6276 (誤) 090-2154-0781

(#439) 角井 好孝

メールアドレス :

(正) kadoi-yoshitaka@asteer.co.jp (勤務先)

tkadoi@hotmail.com (自宅)

(#491) 黒岩 章

郵便番号 :

(正) 103-8247 (誤) 100-8177

<編集後記>

友人がスロバキアで農業問題フォーラムを行ったので、同行させて頂いた。帰路プラハのジェットロ事務所に表敬訪問させて頂き、同地での日本企業に対する評判等を水野所長に伺った。トヨタ自動車の進出で、関連下請け企業が進出開始している様で、日本企業に対する評判はますますのことでした。日本企業のヨーロッパでの生産基地は東欧にまで伸びており、企業のあくなき活動を垣間見た思いがした。